

協会ニュース

2009年11月1日

中国地区品質経営協会
広島市西区横川町3丁目5番9号(世良ビル404号)
TEL(082)532-6844 FAX(082)532-6845
e-mail; qmac@a1.mbn.or.jp
URL; http://qmac.jp/

2009年度シンポジウム モノづくりマネジメント技術革新

- ◆ 日時: 2009年10月30日(金) 13:30~17:00
- ◆ 会場: 広島商工会議所 101会議室
- ◆ 出席: 101名 25社・官・学

今回は第3回ものづくり日本大賞受賞者から、戸田工業(株)の燃料電池触媒と、マツダ(株)の水素自動車に関する環境にやさしい新エネルギーに焦点を当てたシンポジウムを開催しました。

新エネルギーへの関心は高く、出席者は100名を超え盛況でした。

まず、戸田工業の小林様の講演は新エネルギーとして昨今、時に関心が高く、太陽電池、燃料電池などが新聞や雑誌等で盛んに取り上げられている新エネルギー部品開発の取り組み状況についてお話を聞かせていただきました。

戸田工業では、10年ほど前から二次電池正極材料市場へ参入する一方、燃料電池に関する素材、部材、部品の研究開発を行い、現在では触媒部品としてほぼ実機搭載できる段階まで開発が進み、5年後には普及が始まるとの成果を得られていました。

また10年間の開発への取り組み姿勢(何件もの助成・委託金の活用、さらには他機関との共同研究)についても大変興味深いお話をいただき、モノづくりに対する新しい取り組みと情熱を感じました。

次に、マツダの柏木様の講演は地球温暖化対策とりわけCO₂排出量の削減は、いまや世界的な重要課題となっている中、水素の燃えた後は水になり、温暖化の原因となる二酸化炭素を発生しない性質と長年培ってきたロータリーエンジンの特長との融合をはかった水素ロータリーエンジンの開発、特に水素自動車開発の目的やこれまでの取り組み、最新の開発状況などを紹介して頂き、大変興味深く感じました。

また将来の自動車のあり方として、現在のガソリンとディーゼルのように済み分けがあるのと同様に、どちらが優位ということではなく、電気・水素・ハイブリッド自動車は各国とのインフラ整備との関連でその特徴が生かされ利用が望ましいと言うグローバルな環境への捕らえ方が印象的でした。



戸田工業小林氏



マツダ柏木氏



総合司会の井上教授



シンポジウム風景

最後に、広島大学 井上善海教授の総合司会で、活発で楽しい質疑応答を行いました。井上先生はコア・コンピダンスの条件などの説明を交え、「競合他社との違い・顧客価値・企業力を広げる」などのモノづくりのポイントを示唆して頂きました。質疑応答では二番目の顧客価値の観点からの質問が多くあり、有意義なシンポジウムとなりました。